

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

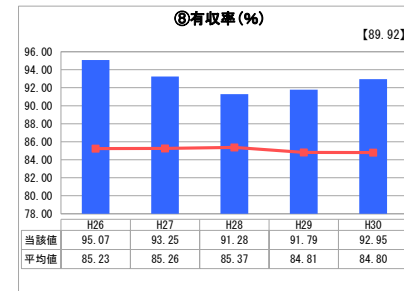
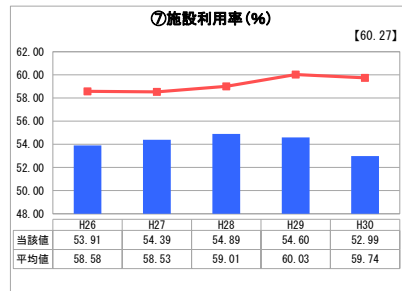
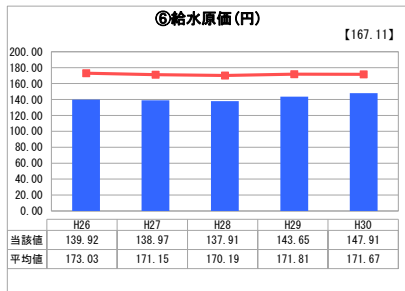
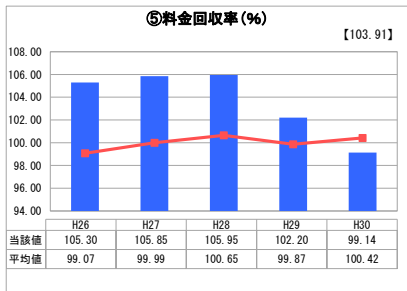
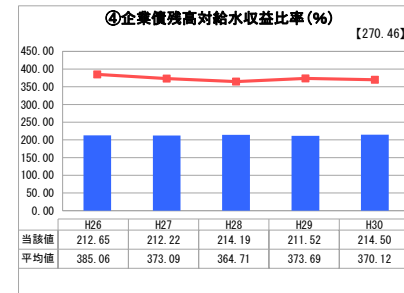
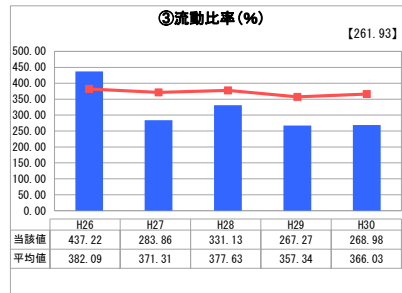
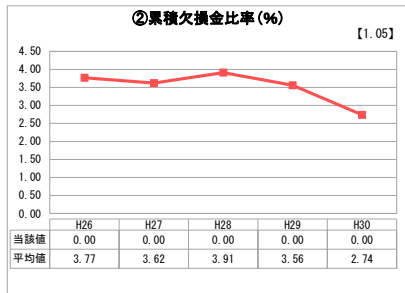
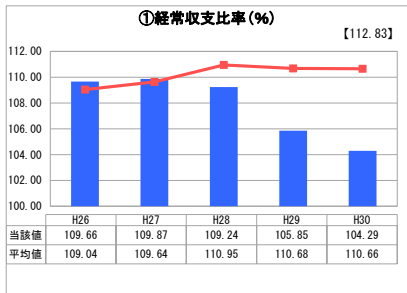
埼玉県 毛呂山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)	
-	80.99	99.75	2,127	

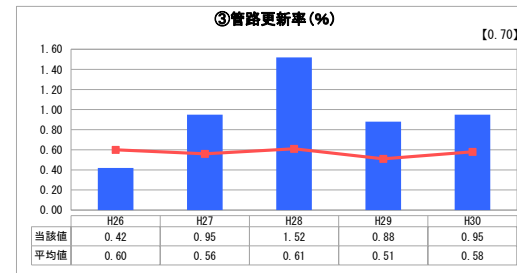
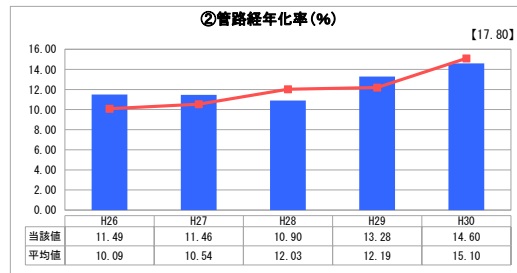
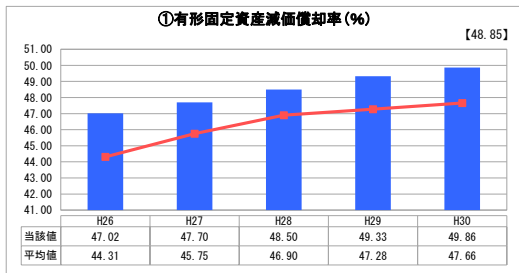
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
33,852	34.07	993.60
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
33,679	24.20	1,391.69

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
100%を上回っており単年度では黒字であるが、年々下降し料金回収率も100%を下回っているため給水収益以外の収入に依存していることを示している。
- ②流動比率  
類似団体平均値より下回っているが、100%を大きく上回っており、短期的な債務に対する支払能力は確保されている。
- ③企業債残高対給水収益比率  
企業債について、毎年の償還額を考慮して借入を行っているため、一定水準を保っている。今後は、給水収益が減少し更新事業の財源として企業債の活用がより多く求められていくため上昇する見込みである。
- ④料金回収率  
100%を下回っており、給水に係る費用が給水収益で賄えないことを示している。これは、給水収益が減少しているにも関わらず費用がなかなか削減できないためである。
- ⑤給水原価  
有収水量1mあたりにかかる費用を示すもので、類似団体平均値、全国平均を下回り低水準であるが上昇傾向にあるため、費用について更なる削減を検討が必要がある。
- ⑥施設利用率  
一日配水能力に対する一日平均配水量の割合を示すもので、類似団体平均値を大きく下回っており、施設規模に対して効率的に利用できていない状況である。今後も配水量は減少する見通しのため、適正な施設規模の検討を行う必要がある。
- ⑦有収率  
全町的な漏水調査を実施し、早期の漏水発見、修理を実施したため有収率の向上につながった。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率  
数値が高いほど法定耐用年数に近い資産が多いことを示している。類似団体平均値、全国平均値も同様だが年々上昇しており施設や管路の老朽化が進んでいる状況である。
- ②管路経年化率  
法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示している。類似団体平均値を下回っているが上昇しているため老朽管の更新を積極的に実施しなければならない。
- ③管路更新率  
類似団体平均値、全国平均を上回っているが、年度によってばらつきがみられる。更新事業の財源が不足しているため、財源確保に努める。

### 全体総括

人口減少や節水機器の普及等により給水収益は減少している状況で、老朽化した施設や管路の更新事業を計画的に実施するためには、その財源確保に努めなければならない。平成29年度に策定した経営戦略では令和2年度には経常損益が赤字に転じる見込みである。そのため、水道料金の改定を検討する。財源を確保することにより、管路では多く残っている石綿セメント管の更新を積極的に進め、将来にわたり安心安全で安定的に水を供給できる経営を維持していく。